



# 小樽南ロータリークラブ会報

**1960年創立**  
昭和35年2月5日

# 13

2020年11月6日発行  
通巻 第2923号

Rotary 

2020-2021年度IRテーマ

**2020-2021年度 RI第2510地区目標**

「守・破・離」の心で  
初心を忘れず！変化を恐れず！  
希望の扉を開けましょう。

- 2020年ロータリー100周年を祝おう
- 会員基盤の強化
- IT活用の推進と公共イメージの向上
- 1クラブ1プロジェクトの推進
- ロータリーファミリーへの支援と学友連携の強化
- クラブ戦略計画の作成に期待

 ロータリーは機会の扉を開く

**本日11月6日金のプログラム**

- ガバナー公式訪問

**来週11月13日金のプログラム**

- 卓話：小樽RC 関 光治氏

**再来週11月20日金のプログラム**

- 卓話：見延会員

●例会場/オーセントホテル小樽 ●例会日/毎週金曜日12時30分 ●事務局/〒047-0032 小樽市稲穂2-15-1(オーセントホテル内) TEL.0134-27-8080 ●Club Homepage URL <http://rid2510.org/otarusouth/>

●第12回例会報告（10月30日金） 夜間例会：朝里クラッセホテル

■ロータリーソング【日も星も風も】

■会長挨拶【斎藤会長】

今日は今期初の夜間例会の予定でしたが、28日水曜日に、北海道独自のコロナ警戒レベルが2に引き上がりました事を受け、四役で話し合い、既に料理の準備に入っていた朝里クラッセホテルさんには、大変ご迷惑をお掛けしましたが、今日のようなお持ち帰りの形にさせていただきました。

私の会長方針の中に、毎月夜間例会を開催するとありますが、いまだ実現できておりません。夜間例会こそ、会員相互の親睦を深める一つの方法と考えておりますので、残念で仕方ありません。年末懇親会は、ぜひ実現したいと思っております。

今日の例会は、延び延びになっていた「60周年の打ち上げ」と「日本のロータリー100周年を祝う」の二つを兼ねて開催致します。60周年会長の小笠原直前と斎田実行委員長からごあいさついただき、広瀬歴代会長には「日本のロータリー100年」と銘打ちお話ししていただきます。さらに、山下会員、小原会員、中山会員から新会員卓話をいただく予定でしたが、12月に延期させていただくことといたしました。

当初、斎田実行委員長には宴席での乾杯、広瀬会員には、宴席での酒のつまみ、アトラクションですので、気楽にお願いいたしますと言っていました。少し堅い感じになってしまいましたこと、お詫び申し上げます。今日はよろしく願い致します。

最後に、次週からの例会運営方式ですが、前述警戒レベル2の関係で弁当の持ち帰りになる事をご了承ください。

■幹事報告

- 次週11月6日はガバナー公式訪問  
理事・委員長は11時よりクラブ協議会。（活動計画の発表）  
当日、会食で食事はできない。（お弁当持ち帰りのみ）  
12:00以降でなければ会場へは入れません。
- コロナレベルが2になりましたので、本日はお弁当は持ち帰りです。次回から当面の間もお弁当持ち帰りを継続します。

■委員会・同好会報告

**【ロータリー財団】松浦委員長**  
10月24日はポリオデーでした。  
本日、皆様より募金したいと思います。  
1人1,000円お願いします。  
※本日募金額145,000円でした。

■出席委員会

**令和2年10月30日(金)**  
夜間例会につき 確定出席率 100%

■メーキャップ

10/30  
松倉氏、久末氏、赤坂氏、平松氏、西條氏、宮本氏、浜田氏、江川氏（以上小樽RC）

前期会長挨拶

前期会長 小笠原 俊 介

本日は、久しぶりの夜間例会及び60周年記念行事の打ち上げということで、大変楽しみにしていましたが、新型コロナウイルス第2ステージ突入により急遽懇親会が中止となりましたこと残念に思います。昨年度の60周年記念行事等につきましては、皆様の協力のもと、無事終了できましたこと、重ねてお礼申し上げます。なお、記念行事等の決算報告等につきましては、近々、例会において皆様に報告する予定であります。新型コロナウイルス感染症がなかなか終息に至らない今日、これからの当クラブの例会運営等につきまして、困難が伴うと思っておりますが、斎藤会長のもと皆様とともにこの難局を乗り越えていきたいと思います。本日は誠にありがとうございました。

「創立60周年記念事業の終結」にあたって

創立60周年記念事業実行委員長 斎 田 義 孝

おぼんです。今例会において昨年度小笠原会長年度に実施されました当クラブ創立60周年記念事業の終結をはかるという事で、実行委員長としてお礼の言葉を述べさせていただきます。

本来、小笠原年度の期末に60周年記念事業の終結をさせていただく予定でしたが、ご存知のとおり、新型コロナウイルスの影響にて例会の休会を余儀なくされ、今例会での終結挨拶となったわけです。ただ、60周年記念事業に関しては、1月の記念事業の実施、2月8日のグランドパーク小樽における記念式典・祝賀会の実施と新型コロナの影響を受ける事なく粛々と遂行する事ができました。今、新型コロナの影響で様々なイベントや事業が中止や変更を余儀なくされている現状を見る時、当クラブの60周年は本当にラッキーだったなと実感しております。これもクラブ会員皆様の日頃の精進のよさ(?)の成果かなと思っております。記念事業にあたっては、工藤記念事業部会長のお骨折りのおかげで、茂木健一郎先生のウェットに富んだ講演を市民の皆様存分に楽しんでいただけたと思っております。記念祝典・祝賀会においては、クラブ外の多くのロータリアンに出席いただき、殊に姉妹・友好クラブの酒田ロータリークラブから参加いただき懇親交流を深める事ができました。当クラブの未来に向けて、意義のある交流活動ができたと思っております。60周年記念誌につきましても福島部会長のもと、記念誌部会の皆さんの努力で立派にまとめていただきました。

今回の当クラブ60周年記念事業については、新型コロナのおかげで終了打ち上げの例会を盛大に実施できなかった事が唯一心残りですが、我がクラブらしく60年の区切りをお祝いできたなと思っております。

会員皆様の創立60周年記念事業へのご尽力に感謝申し上げ、お礼の挨拶とさせていただきます。

# 卓話

# 日本ロータリーの歴史



廣瀬 会員

日本人最初のロータリアンは、福島喜三次とされています。佐賀県有田出身の福島（明治14年生）は長崎商業から東京高等商業学校（現一橋大学）を首席で卒業、三井物産に就職、1905（明治38）年5月にニューヨークに転勤、オクラホマ、ヒューストンを経て、ダラス支店に勤務。1911（明治44）年、ヒューストンに現地法人（サザン・プロダクツ）の子会社（南部物産）を設立し、次席として就任しました。その後、綿花集積地のダラスに移りました。この会社の部下にダラスRCのメンバーであったドイツ人がいましたが、米国が第一次大戦に参戦したために帰国し、その後を受けて1917（大正6）年頃、テキサス州ダラスRCの正会員になったようです。目賀田種太郎男爵を団長（4名の政府役人、4名の財界人）とする8名の団員からなる政府特派財政経済視察団が任命され、渡米し、第1次大戦の好景気に伴って、日本が巨利を得ていたため米国の圧力が高まっていて、実業者間の友好的交流が必要になっていたと思われる。視察団はサンフランシスコ、セントルイス、シカゴ、ニューヨーク、ワシントン等を訪れています。

米山梅吉が選ばれていました（当時、三井銀行常務取締役）。翌年の正月休みを利用して、一行から外れてダラスまで足を延ばし、三井系列の南部物産を視察したことから、福島（36歳）と米山（49歳）との歴史的な会合がダラスの福島の自宅で行われました。この時米山は、「はからずも、ご親切になりこの地に新年を迎え候を、永く記念すべ候」と前置きして、俳句を三句詠んでいたとの事です。現地駐在員として案内役を務めた福島から、ロータリーに関する話を聞いて、関心を寄せた事と思います。

1920（大正9）年1月に帰国した福島は、アルバート・アダムス国際RC連合会長から、年度内に日本にRCを設立してもらいたいという拡大特別代表の委任を受けて奔走しますが、年度末までに、創立に必要なチャーター・メンバーの数を集めることが出来ず、期限切れとなってしまいました。福島は、特別代表には米山梅吉が最適任であると連合会に告げています。新しく選ばれたエスタ・スネデコル連合会会長は、福島に再度委任状を送ると共に、更にパシフィック郵船横浜支店長W.L.ジョンストン（元上海RC会長）を共同代表に加えました。その効果はてき面で、同年9月1日に設立準備会が開かれ、10月20日創立総会となりました。

翌年4月1日、国際RC連合会から認証されました。登録番号は852、チャーターメンバーは24名です。初代会長は米山梅吉です。1922年のR1移行前でしたので、日本で唯一の国際RC連合会認証のクラブです。幹事は、福島喜三次でした。

例会は当初月一回であり、度々流会をし、出席率も悪く、また規約に対する関心も薄かったそうです。会費は、当初年額120円でした。

1922（大正11）年11月17日、星野と福島によって大阪RCの創立総会が行われました。

1923（大正12）年2月10日、R1から認証を受けました。登録番1,349、チャーターメンバー25名です。尚、東京・大阪両クラブ共、シカゴの直接指導によって成立したクラブですので、スポンサークラブはありません。

1935（昭和10）年、京都の地区大会で、全国募集された日本語のロータリーソング4編の発表がありました。その中に、京都・前田和一郎作詞、東京・萩原栄一作曲「奉仕の理想」と「我等の生業」があり、また、国家社会党京都支部長と京都RC石川会長の間で、ロータリーが国家に従順な姿勢を表明するために「例会で日の丸を掲揚し、君が代を歌うこと」に話し合いが付き、京都RCから全国のクラブに連絡されました。

国家権力による強制解散の前に、国内のクラブは、時世に勝てず、静岡RCを皮切りに自主解散を始めました。ただし、国内37クラブのうち名称を変えて存続を図ったクラブが、29クラブありました。また当時、日満ロータリー連合会長・米山梅吉は、軍に呼び出され反逆扱いをされたため、9月4日、R1からの離脱を決意します。

存続を図った29クラブの中で、更なる弾圧に耐え、名前を変え、戦中・戦後の空白の9年間を、ほそぼそと例会を続けたクラブが17ありました。（道内では、函館・帯広・小樽・旭川・札幌・釧路）のクラブでした。

R1理事会は、事務総長補佐ジョージ・ミーンズに日本の復帰諸条件の調査を命じます。

その結果、1949（昭和24）年3月、R1からの復帰条件（1.現状の各曜会の解散、2.定款・細則の順守、3.R1義務の完全履行。他にR1直轄であるので、戦前のような「独自の集団」を形成しないこと、という条件）のもと、3月東京・京都。4月、大阪・神戸・名古屋・福岡。5月、札幌が復帰。この7クラブで新しくR1第60地区が形成されました。7月以降、小樽・函館を含む13クラブが復帰、合計20クラブとなりました1950年、旭川・釧路・室蘭・帯広を含む15クラブが復帰しました。

1950（昭和25）年8月、日本でも、従来の一都市一クラブ制が外れ、大都市では必要な職業人をカバーしきれないため、アドレショナル・クラブ（既存クラブが区域を割るか、区域を同じくするクラブの結成を承認することによって生まれたクラブ）が認められました。

日本ロータリーの幕開けの時代を、お話をさせて頂きました。尚、本日の参考資料は、「ロータリーの歴史に学ぶ」と、ロータリーの源流の会・田中毅会長の「日本ロータリーの曙」を参考にさせて頂きました。また、ご参考までに第6グループに関する各クラブの一覧をつけてあります。ご清聴感謝致します。

## まごころ箱 いつも有難うございます!

**齋藤 会員** 廣瀬さん、今日はありがとうございました。  
前川さん、急な対応ありがとうございました。

**佐藤 会員** Zoom 出席ばかりですみません。

**北野 会員** 会員誕生祝。

# 入金集計額

【令和2.7.3~  
令和2.10.30】

10月30日分

17,000円

合計 **479,000円**